

## 「現和小学校の田之脇棒踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	西之表市立現和小学校
2. 学年・人数	5・6年生（計13人）
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和7年9月8日～9月19日 現和小学校体育館・校庭 (2) 発表の日時・場所 令和7年9月21日（日） 現和小学校秋季大運動会
4. 伝承・活用に 取り組んでいる 郷土芸能、伝統 行事、伝統工芸 品について	(1) 名称：田之脇棒踊り（たのわきぼうおどり） (2) 由来：1885（明治18）年に山川から同市岳之田地域に松木基助氏他5人の方々が移住されたとき、郷土山川の棒踊りを岳之田で披露したのがはじまりと言われる。勇壮なスピードある踊りは他の棒踊りの群を抜くと言われ、その後、縁故関係にある現和下之町地域、さらには田之脇地域の雄志たちがこれぞ誠の田之脇の伝承芸能にと指導を受け踊り、今日に至ったと言われている。 (3) 構成等：6人1組で、陣形を変えながら2人が六尺、4人が三尺の長い棒を打ち合う力のこもった演舞。唄は7番まであり、同じ動きを繰り返す。衣装は、浴衣に褌をかける。六尺と三尺の棒を持つ踊り手の褌の色は違う。また、三尺の棒を持つ踊り手の右と左の綱の向きが違う。
5. 文化財伝承・ 活用の取組にお いて地域との連 携や工夫した点 等	現和小学校の運動会では、毎年恒例のプログラムとして、5・6年生が田之脇棒踊り保存会の方々の指導を受け、地域の伝統を引き継いでいる。運動会当日には、保存会の方の生歌に合わせ、子供たちが棒踊りを披露する。 子供たちは、踊りだけでなく、どのように伝承されてきたのかについて、保存会の方々からの話を聞く中で、学びを深め、棒踊りを継承している。 学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために、高学年担任を中心に、特に運動会前の事前練習の時間確保に努め、保存会の方々から子供たちが正確に踊りを教えてもらえるようしている。 また、学校の運動会や風本神社秋の大祭（隔年）や願成就等の地域行事等で、棒踊りの発表の機会の確保（継続性）に努めている。 夏休みは、子供たちが由来や表現の意味などを調べるなど、田之脇棒踊りだけでなく、自分の住む地域の伝統芸能にも理解を深められるようにした。
6. 取組の様子 （練習状況、発 表の場等）	   <p>保存会の方の指導・練習      運動会発表①      運動会発表②</p>
7. 感想・意見  （参加児童生 徒・保護者・ 保存会・教員 等）	<p>【児童】 棒踊り保存会の方が、練習のときに動作の意味も教えてくださった。保存会の方の踊りは動きが大きくてとてもかっこよく、実際に見て「自分も頑張ろう」という気持ちになった。</p> <p>【教職員】 地域の方々や保存会の方々の熱心な思いが子供たちに伝わり、本番は、その期待に応えるように精一杯の踊りを披露することができた。保護者の方々も、子供の頃から踊ってきた棒踊りが何世代にもわたって受け継がれていることの素晴らしさを改めて感じていた。</p> <p>【保存会の方から】 このような継承活動は、郷土への愛着を深めるだけでなく、地域の歴史や文化を大切にしようとする心を育むだけでなく、地域の活性化にもつながっていると感じている。</p>